

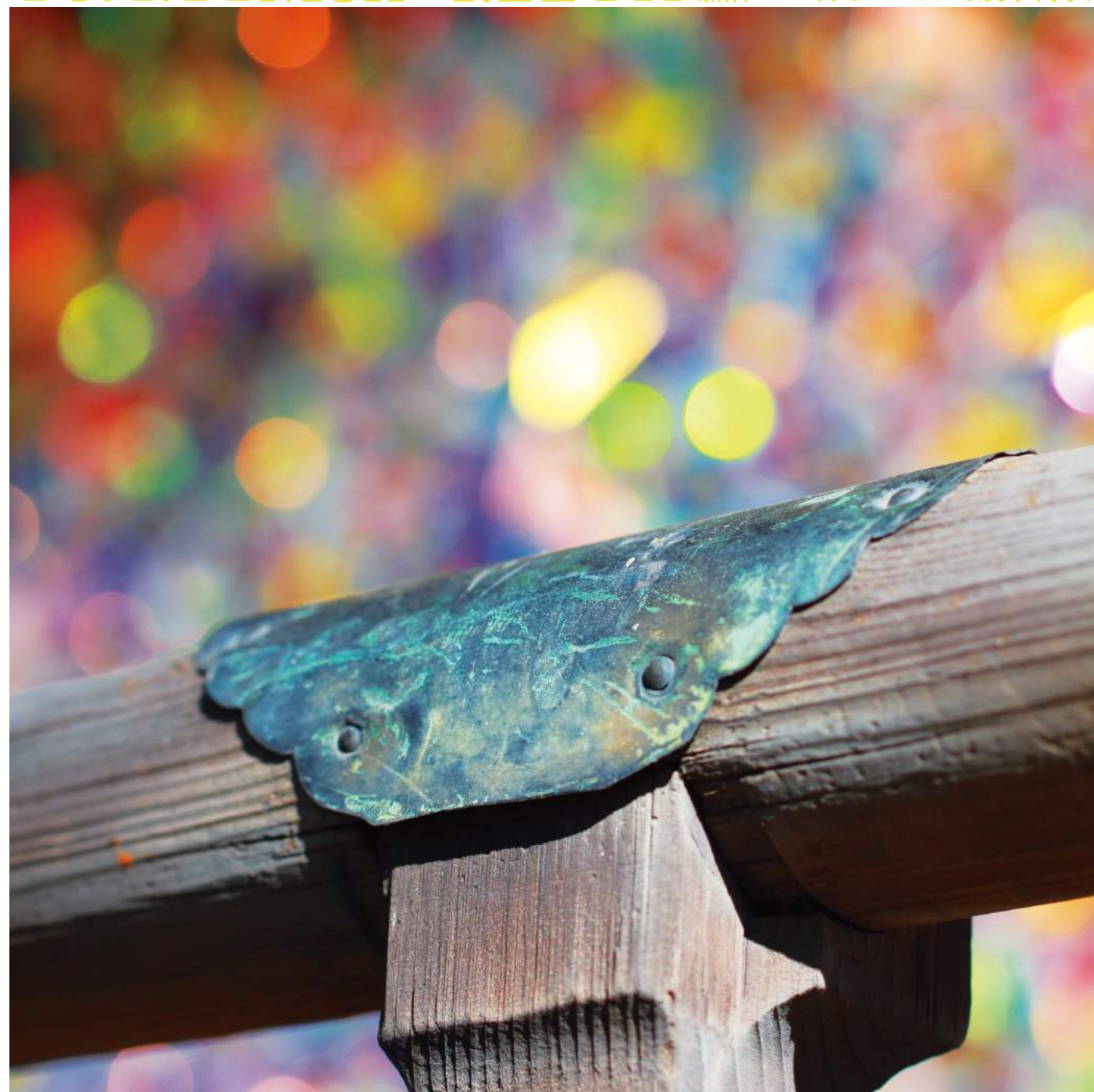
上野東照宮 小川剛

OGAWA GO Lustrar Exhibition

光彩陸離展 剛

2016.4.11 Mon - 4.22 Fri (無休 / 22日は14:00で展示終了)

上野東照宮・神楽殿「上野公園内」(無料)



参拝時間 9:00~17:30

主催：上野東照宮

小川剛 OGAWA GO Lustrar Exhibition

上野東照宮・神楽殿 光彩陸離展

2016.4.11 Mon - 4.22 Fri (無休 / 22日は14:00で展示終了)

上野東照宮・神楽殿「上野公園内」(無料) 9:00-17:30



中日黒GT(2015) 撮影：野口浩史



西武渋谷店B館3階(2015)



ホテルメトロポリタン東京 池袋(2015)

宇宙に漂う銀河の瞬き・自然界の光の現象にインスピレーションを受け、偏光フィルムと様々な素材・表面加工を組み合わせた立体作品・インスタレーションを制作しています。プリズムによって起こる光の屈折作用を応用することで、複数の色に分散された光の粒子が空間を支配し、見る者の造形意識を狂わせ劇的に視覚環境を変化させる作品制作に取り組んでいます。関東を中心に商業施設・野外音楽イベント等でインスタレーションを多数手掛けています。

本展は上野東照宮・神楽殿での初の現代アート展示となります。文化・地域性・奉納・極彩色をキーワードに、神楽殿内部に創建時の絢爛豪華な姿に修復された社殿を作家の視点でポップカルチャーとして再現する試み。外国人観光客が訪れる場所として上野・秋葉原は欠かせないスポットであり、外国人が抱く日本の伝統文化とサブカルチャーが同時に体感できる地域性をひとつの空間に存在させる。また、作品を構成する素材に関して一部を募集・支援して頂き、奉納という形で使用します。光彩陸離たる作品をご高覧頂ければ幸いです。

最後に、このような展示の機会を頂き、嵯峨様に心より感謝いたします。



小川 剛
1981 神奈川県生まれ
2007 東京藝術大学卒業
2009 東京藝術大学大学院修了
2011 C-DEPOT 所属



[社殿]



[装飾]



[装飾]



[神楽殿]：展示場所

[上野東照宮]1627年(寛永4年)、津藩主藤堂高虎と天台宗僧侶天海僧正により、東叡山寛永寺境内に家康公をお祀りする神社として創建され、1646年(正保3年)には正式に宮号を授けられ「東照宮」となりました。現存する社殿は1651年(慶安4年)に三代将軍・徳川家光公が造替えをしたものです。その後戊辰戦争や関東大震災でも焼失せず、第二次世界大戦にも不発弾を被っただけで社殿の倒壊は免れました。江戸の面影を現在に残す貴重な文化財で、東京では数少ない本格的な江戸建築を間近でご覧になれる神社です。東照宮とは徳川家康公(東照大権現)を神様としてお祀りする神社です。

御祭神 徳川家康公、徳川吉宗公、徳川慶喜公

[神楽殿]1874年(明治7年)、深川木場組合奉納。屋根の勾配の美しさは都下随一といわれています。

このたび当宮で小川剛さんの展示を行う運びとなり、大変光栄に存じます。水中にいるような、宇宙に浮かんでいるような、輝く作品の世界に魅せられ、何度も小川さんの展示に足を運びました。私が神主を務めております上野東照宮は重要文化財に指定されております。日本各地はもとより、伝統建築を見学しに海外からも御参拝の方がお見えになり、2020年の東京オリンピックを控え今後益々海外からの方も増えると予想しています。当宮では、御参拝の方に日本の芸術をお楽しみいただける催事として神楽殿での琵琶や神楽、小唄の演奏会を開催してまいりましたが、いつか現代アートの展示もできたらと考えておりました。そんな折に小川さんの展示でご本人にお目にかかる機会を得て、境内での展示を御提案致しましたところ、快く引き受けてくださり今回の展示に繋がりました。五年がかりの修復を終え江戸創建当時の姿を甦らせた上野東照宮と現代アートのコラボレーションをお楽しみいただけたら幸いです。

上野東照宮 禰宮 嵯峨 まき

[アクセス]

〒110-0007 東京都台東区上野公園9-88
TEL:03-3822-3455
○JR「上野駅」公園口より徒歩5分
○京成電鉄「京成上野駅」池之端口より徒歩5分
○東京メトロ千代田線「根津駅」2番出口より徒歩10分
駐車場はありませんので、車での来場はご遠慮ください。

詳しいマップはこちらから



ABOUT

This exhibition is the first contemporary art exhibition in the Toshogu-Kaguraden. This installation work that combines traditional culture and subculture by contemporary artists of Go OGAWA. Exhibition period is April 11 - April 28, 2016.

English website is here

